



# 帯広市立啓西小学校 令和5年度Ⅲ 学校改善プラン①～確かな学力～

北海道教育委員会「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校 帯広市教育研究所指定研究実践協力校 北海道金融広報委員会金融教育指定校

期間 令和6年1月12日～令和6年3月22日 ※ 令和5年7月検証・改善 → IIの作成 → 令和5年12月検証・改善 → IIIの作成 → 令和6年度に向けて

「令和の日本型学校教育」の構築 ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～

【教育目標】 進んで学び 心やさしく 元気な子 【校訓】 どんどん わくわく いきいき

＜今年度の重点＞ 時を守り 場を清め 礼を正し 物事に向き合う啓西っ子

R5ミッション「指導をそろえる」 ①時を守り場を清め礼を正す ②児童理解に根ざした生徒指導 ③学力向上～向き合える力を育む ④働き方改革～検証から新年度へ

## 全国学力学習状況調査、今年度検証より

## R5学校評価・学校力向上に関する総合実践事業アンケートより

	国語	算数	質問紙	指導方法の工夫	授業改善と基礎学力の向上・朝学習と家庭学習の取組
実態	○国語科の校内研究により授業改善が進み、昨年度の得点率を上回り全国平均並みの結果となった。十勝管内、帯広市の平均を上回る結果となった。 ■知識及び技能の観点：全国平均↑思考力・判断力・表現力の観点：全国平均↓ ■記述式の問題について、全国平均比で正答率が低く、無回答率も高い。 ■3二の問いについては、無回答以外に、3つの条件（読みとったことをまとめる・言葉や文を取り上げて書く・字数）のいずれかを満たさず誤答となっている。（40字以上60字以内なので、必要な言葉だけを整理して書く力も必要）	●昨年度より全国平均を下回る結果となった。（十勝、帯広市平均並み） ■数と計算では全国比で5ポイント以上下回った。四則計算などの基礎基本の定着と計算の仕方等を説明できる力を身につける必要がある。 ■2（4）では条件に合った説明ができなかった児童が8名いた。 ■既習事項である用語や表の読み取りなど、知識の定着が課題。 ■学んだ知識を活用して表現すること（説明、考えや思いを文章で表現）を、普段の授業の中で意識して取り組むことが大切。 ⇒選択式・短答式・記述式いずれの問題についての正答率が低い。知識の定着を図るとともに理由を説明したり解き方を説明できる力の習得。	○「平日の学習時間」について、30分未満の回答割合が全国と比べて5%以上低い。 ○「主体的学習」「考えをまとめる活動」等、肯定的な回答の割合が全国と比べて5%以上高い。 ●「読書が好きか」について、否定的な回答が全国と比べて5%以上高い。 ●「平日の読書時間」について、「まったくしない」の割合が全国と比べて5%以上高い。また、「図書館・図書室利用」について「ほとんど、全くいらない」の割合が全国と比べて5%以上高い。 ●記述問題を最後まで解答しようと努力することができるが、解答時間が足りないと感じている児童が多い。	○「先生は毎日の授業をわかりやすく教えているか」という問いに対し児童の98.7%、保護者の93.9%が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答。 →授業改善の効果として、児童、保護者の評価は高い。家庭での学習を継続させる指導の強化が必要。	○平日の家庭学習は全くしない児童が2.6%。自分で計画を立てて学習している児童は6年生で44.6%が「よくしている」と回答。全国値より15.9pt高い。 ▲平日の家庭学習では1時間未満が72.1%（全学年）と多い。6年生においては2時間以上が19.6%と全国値より6%少ない。
全国比(前年)	-0.2pt(R5全国比)	-3.5pt(R5全国比)		学校：3.8↑ 保護者：3.3→ 児童：3.8→	【改善に向けて】児童の学習習慣の定着に向けて、教務部中心に児童の実態に合わせた学習方法を提示し、継続的に個別指導を行う。また、家庭との連携は不可欠であるが、保護者に対する協力の要請を強める必要がある。
今年度(速報)	67pt(R5啓西)	59pt(R5啓西)			【改善に向けて】研修部主体で行っている「樺山メソッド」による「ラーニングマウンテン」の活用を国語科以外でも取り入れ、授業改善を行う。また、授業改善と家庭学習指導を一体化させる具体的取組に結びつける。

課題	検証改善サイクルの確立 組織的な取組の充実	授業改善の推進「主・対・深」学びの実現 身に付けさせたい資質・能力を明確化	学校間、家庭及び地域との連携推進 目指す子どもの姿を職員・地域(家庭含)・児童と共有
目標	サイクルを確立していると回答している教職員100%にする。	授業の内容がよくわかると回答する児童各教科100%にする。	自分で計画を立てて勉強している児童を80%以上にする。
改善の方策	<b>学力向上に向けて～環境(形態)整備～</b> ○近隣小中学校と連動した学習スタイルについて共有し、 <b>小中9年間の学び</b> へ。学力向上プロジェクトチームを活用した検証・改善を行う。 ○授業改善と連携させ、 <b>読む力、書く力</b> を強化する。(レインボーモデル) ○1人1台端末の <b>効果的活用</b> の促進(主体的な学びへ)	<b>日常の授業改善</b> ○全教科において、学力向上に向けた「 <b>ラーニングマウンテン</b> 」を授業改善に活用し、発達段階に応じた <b>主体的な学習</b> の推進を図る。 ○算数科において、 <b>習熟度別学習</b> を一層充実させ、低位層児童の学力の底上げを図る。 ○ <b>個別最適な学びの充実と協働的な学び</b> を実践し、 <b>資質・能力の向上</b> につなげる。	<b>家庭・地域との連携</b> ○主体的な学びへ変換するべく、 <b>家庭との連携を一層強化</b> し、学習習慣の定着を図る。 ○C・S協議会を活性化させ、共感的人間関係の構築を目指し、 <b>家庭の教育力向上</b> を推進。 ○10年後の姿を見据えて、 <b>中学校卒業後の子ども像、20才の子ども像</b> を描き、学校と共有する。 ○ <b>小中学校が一貫した教育課程</b> の構築(現、おび学のみ)を一層、推進させる。

## 学力向上～向き合える力を育むために～3学期、新年度に向けて

## 学力向上に向けて学校・地域・家庭が共有すべきこと

重点と共有内容	<p>(1)カリキュラムデザインを意識して ～期待される「次代の学び」の追究～主体的、対話的で深い学びの見える化を ※TTT(Too Talk Teaching)からの脱却「45分の授業の中で、教師が話している割合は？」→その間、能動的or受動的？(昭和～平成)指導書の通り計画を立て、教える授業⇒(令和)個別最適な学び &amp; 協働的な学び ☆学齢や発達段階に応じた一斉指導は必要 ☆単元・コマによっては、教師主導の授業構成 子どもの納得解：「わかった」を実感させる「なるほど」、「そうだったのか」などのつぶやき</p> <p>(2)個別最適な・協働的な学びの再構築を！ ・ジャムボードから<b>ROIノート</b>へ</p> <p>(3)公開研で発信<b>レインボーモデル</b>の具現化 ①段落読みから文章全体読み ②関連教材への取組 ③理由を音声言語で伝える ④3Z限定の書き取り ⑤解決策を提示した交流 ⑥速読速書 ⑦多読多書 → <b>ラーニングマウンテンを授業構成に</b></p> <p>(4)一校一実践の継続した取組 ①放課後学習「けいせいくん」 ②自学帳の取組 ③計算チャレンジ &amp; AIドリルの効果的な活用</p> <p>(5)通常・特支学級担任の意図的な連携 ①個別の指導 ②個に応じた指導の展開</p>	<p><b>学習のやくそく</b> みんなで取り組む 朝学習の時間8:20-8:30</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登校後の朝の落ち着いた雰囲気は、その後の1日に影響します。</li> <li>朝の10分間を有効に利用しています。</li> <li>月曜…学級タイム 火曜…読書タイム 水曜…音読タイム 木曜…計算タイム 金曜…馬カタイム など</li> </ul> <p><b>学習規律を守って学ぼう！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トイレ、水飲みは準備時間にすませよう。</li> <li>始まる前に学習用具を準備しよう。</li> <li>チャイムが鳴ったら席についていよう。</li> <li>名前を呼ばれたら「はい」と返事をしよう。</li> <li>ふでいれや机の中を整とんしよう。</li> </ul>	<p><b>家庭での学習(習慣化)</b> ～毎日、自主的に宿題や課題に取り組みましょう～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習習慣を身に付けられるように取組を促します。</li> <li>○付けについてはご家庭に協力をお願いすることがございます。</li> <li>・時間の許す限り、家庭学習に取り組む姿をご覧ください。</li> <li>・保護者からの声かけは必要最低限で！「どのくらい取り組んだの」「終わった問題、見せてね」等、自主的に取り組んだことを前提に会話しましょう。</li> </ul> <p><b>進んで家庭学習に取り組んでいたら褒めます！自己肯定感の向上</b></p> <p>【家庭学習の内容例】※宿題や塾等の学習も含まれます。 ・日記・音読・視写・暗記・計算・漢字・熟語・ローマ字・予習・復習など ・○付けをしてから、提出します。 ※学級毎で取り組む内容が異なりますが、次の学年に継続できる取組を行います。 【家庭学習の目安時間】 学年×10分 が目標時間です。 (例)1学年×10分=10分が目標です。高学年は+αを目標にしましょう。</p>
---------	--	--	---

評価	<p>★全国学力・学習状況調査 ★標準学力検査 ★北海道チャレンジテスト ★各教科の単元テスト ★授業評価 ★学校評価(自己評価, 学校関係者評価, 児童・保護者アンケート) ★西陵中エリアアンケート ★「学習のきまり」ふりかえり ★学校改善会議(GKK)</p>
----	--



# 帯広市立啓西小学校 令和5年度Ⅲ 学校改善プラン②～豊かな心・健やかな体～

北海道教育委員会「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校 帯広市教育研究所指定研究実践協力校 北海道金融広報委員会金融教育指定校

期間 令和6年1月12日～令和6年3月22日 ※ 令和5年7月検証・改善 → IIの作成 → 令和5年12月検証・改善 → IIIの作成 → 令和6年度に向けて

「令和の日本型学校教育」の構築 ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～

【教育目標】 進んで学び 心やさしく 元気な子 【校訓】 どんどん わくわく いきいき

<今年度の重点> 時を守り 場を清め 礼を正し 物事に向き合う啓西っ子

R5ミッション「指導をそろえる」 ①時を守り場を清め礼を正す ②児童理解に根ざした生徒指導 ③学力向上～向き合える力を育む ④働き方改革～検証から新年度へ

## 「豊かな心の育成」R5学校評価、西陵中エリアアンケートより

## 「健やかな体の育成」R5全国学力調査・全国体力調査・学校評価より

	爽やかなあいさつ	時間を守る意識	いじめのない仲間づくり	自己肯定感・有用感	規則正しい食生活	運動習慣と健康	安全・安心な学校
エビデンスと対応	○保護者90.2%、学校は96.4%が指導されていると回答。児童の91.4%が「自ら進んであいさつしている」と回答。特に「そう思う」の回答が前年比8pt以上向上している。 ▲保護者からは「家庭ではあまりしない」との声もあることから、学校と家庭が分け隔てなく、連携した指導を行っていくことが重要である。 学校：3.7↓ 保護者：3.3→ 児童：3.6↑	○保護者95.5%、学校は100%が「時間を守る」指導を行っているという回答し、91.7%の児童が自分自身で気をつけていると回答している。 ▲登校時の遅刻児童が減少しているが、遅刻者が固定化してきていることから、3学期以降も家庭と連携し、個別指導を徹底する。 学校：3.8↓ 保護者：3.5→ 児童：3.4→	○97.4%の児童がいじめをしない、させないよう心がけている。保護者も88.8%が指導されていると回答している。教職員の100%にあとわずかであるが、意識向上が見られる。 ▲全校一斉指導により、児童と教職員の数値が向上しているが、いじめ調査の結果ではいまだ「いやな思いをしている」児童がいることから、共感的人間関係の構築が必要。 学校：3.9↑ 保護者：3.1→ 児童：3.7↑	○保護者の88.7%が、学校は自己有用感を育む指導を行っているという評価している。児童も95.5%が学校（悩みや問題の解決）を評価している。 ▲「自分にはよいところがある」が75%と4人に1人が自己肯定感を持っていない。居心地のよい学校環境を整備し、道徳教育を充実させ、将来への夢と希望を与える教育を推 学校：3.8↑ 保護者：3.2→ 児童：3.7→	○全校で朝食を「毎日食べている」児童が82.6%、「時々食べない日がある」児童が9.1%と合わせて91.7%の児童が食べている結果となっている。 ▲「食べない日がよくある」「食べていない」児童が8.3%いることから、家庭別に個別の食生活習慣定着のための指導が必要である。家庭との連携強化が必要。 毎日食べている：82.6% ときどき、食べない日がある：9.1% 食べない日がよくある：4.2% まったく食べていない（他）：4.1%	○男子は、握力・上体起こし・反復横跳び・立ち幅とびが全国値より極めて高い結果となった。（男子は8種目中5種目全国値を上回り、女子は全ての種目全国値を下回る）児童の95%が「体育の授業が楽しい」と回答。 ▲男女共に20mシャトル、50m走、が全国値を下回り、走力に課題が見られる。放課後等の平日の運動の習慣育成も必要。 ■体育の授業で、ICTを使った学習で「できたり、わかつたりする」男29.2%：女33.3% ■土日の学校外での運動⇒男(30～40分)女(全国並み)	○95.2%の児童が安心して楽しく登校できている。保護者においても98.5%が見守り活動は有効であると捉えている。 ▲「全児童、全保護者が安心できる学校」であることを前提に、今後は100%の児童が安全に楽しく登校できる学校指導体制を構築し、家庭・地域と連携した安全安心な学校づくりを行う必要。 学校：3.9↑ 保護者：3.5→ 児童：3.7↑

課題	礼を正す	時を守る～生活リズム～	いじめ根絶と道徳教育の充実（生徒指導体制整備）	心理的安全性の構築（プロアクティブ・リアティブ）	食育の充実（食に関する資質・能力の育成）	運動習慣の形成のための環境整備	安全・安心な教育環境の構築
目標	自分からするあいさつへ（自己肯定感・有用感の向上）	学校体制で組織的な取組（一層の徹底）	【生徒指導の4つの視点】 ・自己存在感・自己決定 ・共感的人間関係・安全、安心な風土	自己肯定感や有用感の向上（自己存在感を実感）	学校・家庭・地域が一体となった健康づくりの充実	日常的な運動機会の創出	交通安全・防犯・防災教育 災害対応体制の確立
目標	「自分から進んであいさつをする」を100%にする。（児童）	「時間を守ることに気をつける」を100%にする。（児童）	「いじめをしない、させないようにする」を100%にする。（児童）	「自分にはよいところがある」を100%にする。（児童）	「毎日食べている」を100%にする。（児童）	「体育の授業が楽しい」を100%にする。（児童）	「安心して楽しく学校に通っている」を100%にする。（児童）

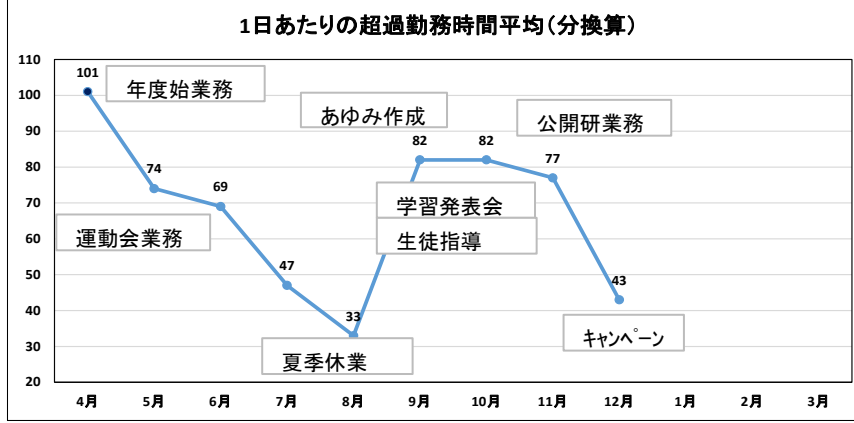
改善の方策	<b>学校体制としての指導</b> ○「されたらする挨拶」からの脱却（3「あ」あいさつ） ○全校で足並みを揃えた指導 ○正しい廊下歩行（走らない） ○教室移動時の整列の徹底 ○ラウンジスペースの正しい利用	<b>生活リズムを整え、日常から児童理解に根ざした生徒指導</b> ○8:15登校 8:20朝学習開始の徹底（遅刻者の更なる減少へ）※1時間目のスタートが肝心 ○チャイムで始まりチャイムで終わる授業 ○下駄箱の整頓（靴を揃える）、机・ロッカーの整理【場を清める】（3「あ」あとかたづけ） ○「考え議論する道徳」の充実により、全教職員でいじめ根絶、命の大切さを指導し豊かな心を育成する。 ○思いやりの心（3「あ」ありがとう）や規範意識、人の心や考えを尊重する態度を養い自己肯定感、自己有用感を高める。 ○食事、睡眠等の規則正しい生活を指導し、基本的な生活習慣の定着を図ることで、社会で生き抜く力を育成する。	<b>望ましい生活習慣の確立に向けた家庭や地域との連携</b> ○食生活や運動習慣を定着させ、社会で生き抜く力を保護者・地域と協働し育成する。 ○望ましい生活習慣定着のために、エリア・ファミリーアンケートから具体的改善策を導き、改善する。 ○保護者と連携し西陵中エリアファミリー「ノーテレビデー」の取組を基に生活リズムの定着を図る。 ○懇談会等でインターネットやSNS、スマートフォンの使い方について啓発し、安全・安心なよりよい教育環境づくりを行う。 ○体力向上プランに基づき、継続した運動機会を創出し、体育以外の運動の促進を図る。 ○本校の課題を検証し、体育の授業内において弱点（走力等）強化の取組（軽トレーニングを活用等）を行う。
-------	---	--	---

## 働き方改革～検証から～

## 3学期、新年度に向けての具体的方策

課題と目標	<b>学校力向上に関する総合実践事業の取組から</b> 働き方改革により、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで人間性や創造性を高め、子どもに効果的な教育活動を実施。 ・ <b>超過在校等時間（1か月45h以内にする）→昨年の勤務実績比10%削減目標</b> 学習発表会、公開研究会時期以外は昨年度を大きく下回り、2学期末でも月22時間平均となり大幅に削減されている。 <b>12月末現在、昨年比-15%</b>	(1)自走する組織(学校)への変革を！！ 全員が主役の「シェアド・リーダーシップ」へ (2)教科担任制全学年での取組 ・国語・算数科以外で確実に実施 ・可能であればブロック単位の教科担任制も可 (3)学習サポーター制の導入 ・マンパワーには限りがある。⇒保護者・地域との連携(協働を探っていきましょう。)※スケート、家庭科、etc (4)学年事務の平準化の交流(学年担任) ・学年団内メンバーの在校時間も考慮し実施(学年通信／行事担当／学年事務の分担) (5)学年徴収金口座振替に移行強化(事務) (6)計画年休の実施(事務) (7)校務支援システムの効果を見える化する ・システム導入にともない、困り感、改善点などを明確にし、課題の方策を練る。 (8)「新たな教師の学びの姿」にむけて ・市内公開研(各種研究授業含)・研究所、研修センター講座等⇒普通免許状及び特別免許状の更新制を発展的に解消 ※あらゆる機会を通して研鑽する ⇒記録化
-------	---	---

エビデンスと現状	学期ごとの計画年休(金or月)を実施。各学年で調整し申請。これにより、年休取得率がアップし、職場内で「休む」ことへの抵抗感が払拭され、働きがいのある職場となっている。また、毎週金曜日の学校定時退勤日、定時退勤強化月間による取組で昨年比減となっている。
----------	---



評価	★学校評価(自己評価、学校関係者評価、児童・保護者アンケート) ★全国学力・学習状況調査 ★全国体力・運動能力、運動習慣等調査 ★西陵中エリアアンケート ★学校改善会議(GKK)
----	--